

よなきいし
夜泣き石

未の満水で亡くなった子供の声

ひつじ まんすい

未の満水(1715(正徳5)年)の際に、野底川上流の山崩れによって土石流が発生した。

この土石流によって野底川の上流から松川合流点付近まで全長7mにもおよぶ巨石が運ばれてきた。

子どもが下敷きになって亡くなり、子どもの泣き声が聞こえてきたので、供養のために石の上に地蔵を祀ったとされる。



巨石の上の地蔵



野底川から流れてきた全長7mにおよぶ巨石

information

□ アクセス

飯田線伊那上郷駅から
1.2km

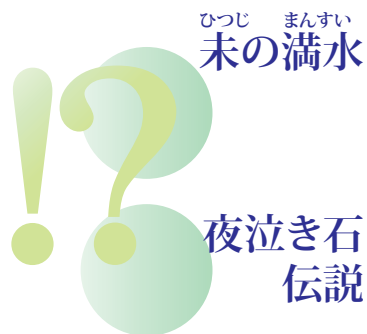
徒歩→15分

飯田ICから5km

車→10分

□ 所在地

飯田市上郷別府



ひつじ まんすい
未の満水

夜泣き石
伝説

川路村水防史によると『1715(正徳5)年6月17日から雨が降り始め、18日未明より豪雨となり、19日夕方4時前後にようやく天竜川の水が引き始めた。川除け374間(673m)、落橋3箇所、道路5箇所に被害が出た』と記されている。この年が未年だったため、この名が伝わる。

夜泣き石(よなきいし)は、石にまつわる日本の伝説の一つ。各地にさまざまな夜泣き石が存在する。

大別すると、泣き声をする、子どもの夜泣きが収まるとの伝説に分かれる。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)